

2023 AC

The 2<sup>nd</sup> Celebrate Hanukkah

原語で味わう創世記第2章

12/24~31

No.5 26日(夜)

# 「創世記2～3章」を学ぶ上で大切な視点

【新改訳2017】

イザヤ書34章16節

主の書物を調べて読め。

これらのもののうち、どれも失われていない。

**それぞれ自分の伴侶を欠くものはない。**

それは、主の口がこれを命じ、

主の御霊がこれらを集めたからである。

※ 「自分の伴侶」にたとえられているのは、神のみことばの証言が必ず伴侶のように置かれているということの意味します。それに出会わせてくれるのは御霊です。

# 1. 今回のテキスト

【新改訳2017】創世記2章10節

一つの川がエデンから湧き出て、園を潤していた。  
それは園から分かれて、四つの源流となっていた。

- 9節にエデンの園に「見るからに好ましく、食べるのに良いすべての木を・・生えさせた」とありました。それに加え10節では「一つの川が・・湧き出て園を潤していた」とあります。「木」と「川」は、いずれも人が食べ、飲むためのものです。人に飲ませるためのいのちの流れが「川」となって湧き出し、園の全体を潤していたのです。「いのちの木」と「いのちの水の川」は、「神のことば」と「聖霊」を意味します。それらがエデンの園でミングリングしていたのです。

## 2. 「湧き出る一つの川」 ①

● 「湧き出る」 = 新共同訳「流れ出る」は「ヤーツアー」(אֲצַרְאֵי)。エデンの園において、人が「いのちの木」に象徴される神のみことばを食べると同時に、「いのちの水の川」を飲むことで、渇きが満たされた状態を「潤す」(「シャーカー」קָרַח)と表現しています。これは聖霊を表す象徴です。これは黙示録22章1節の「神と子羊の御座から出る(אֲצַרְאֵי)いのちの水の川」と符号します。エデンの「園」 = 聖所の「至聖所」です。

【新改訳2017】ヨハネの黙示録22章1～2節

1 御使いはまた、水晶のように輝く、いのちの水の川(単数)を私に見せた。

川は神と子羊の御座から出て(אֲצַרְאֵי)、

2 都の大通りの中央を流れていた。こちら側にも、あちら側にも、十二の実をならせるいのちの木があって、毎月一つの実を結んでいた。その木の葉は諸国の民を癒やした。

## 2. 「湧き出る一つの川」 ②

● **湧き出る** (「ヤーツアー」 נִצְּרָה の分詞) 川についての言及として、イエシュアがサマリアの女に「わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が**湧き出ます**」と言われました。また、イエシュアは「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が**流れ出る** (נִצְּרָה) ようになります」(ヨハネ7:37~38)と言われました。尽きることのない「いのちの水」の流れ、それは「**聖霊**」を象徴しています。

● エゼキエル書47章にも、神殿からいのちの水の川が**流れ出て** (נִצְּרָה)、その川が流れ行く所のすべてのものが生きるというメシア王国のヴィジョンが預言されています。「いのちの水の川」の特性は、絶えず至聖所から「**流れ出る・湧き出る**」ことにあります。いのちは「**流れ**」なのです。

## 2. 「湧き出る一つの川」 ③

●創世記1章に登場する語彙は文字(字義)通りではなく、メタファー、象徴として使われていました。とすれば、「一つの川」(「ナーハール」<sup>נָהָר</sup>)も同様です。エデンの園には源泉となる川は単数です。しかしその源泉から「四つの川」に分かれ出て、末広がり拡大します。

●聖書の「四」は「すべて・全地」を象徴する数です。「源流が四つの川に分かれていく」のは、祝福の源泉である神のいのちが全地に流れ出て行くことをイメージさせます。また逆に、神は「全世界に離散した全イスラエル」を隅々から集めて、聖なる都エルサレムに連れ戻されることも然りです。それはエレミヤやエゼキエルが預言している通りです(エレ32:37、エゼ37:21)。「四」(全)は、「一」(源泉)とつながっているのです。

### 3. 「源流」と「拡大」

●エデンから湧き出る「一つの川」は「ナーハール」(נָהָר)の単数形です。そこから四つの川となって分かれ出ます。四つの「源流」は「ラーシーム」(רְשִׁימָה)です。本来、源流は単数であるべきですが、ここではなぜか複数形です。これはどういうことでしょうか。神を意味する「エローヒーム」(אֱלֹהִים)も複数、いのちを意味する「ハツイーム」(חַיִּים)も複数、そして源流も複数形です。

●「源流」(「ラーシーム」 רְשִׁימָה)の語源は「ローシュ」(רֶשֶׁת)で、「頭、かしら」なるキリストを意味します。とすれば、キリストは「いのちの源流」「喜びの源流」といった「あらゆる祝福の源流」と言えます。つまり、歴史のすべての流れはキリストにあって支配されていることを強調する複数形かもしれません。使徒パウロは「キリストがすべてであり、すべてのうちにおられるのです」(コロサイ3:11)と言っています。

## 4. 「第一の川」

【新改訳2017】創世記2章11～14節

11 第一のものの名はピション。それはハビラの全土を巡って流れていた。

そこには金があった。

12 その地の金は良質で、そこにはベドラハとショハム石もあった。

13 第二の川の名はギホン。それはクシュの全土を巡って流れていた。

14 第三の川の名はティグリス。それはアッシュルの東を流れていた。

第四の川、それはユーフラテスである。

- 「第一のもの」は序数ではなく、基数の「エハード」(אֶחָד)に冠詞がついて「ハーエハード」(אֶחָדֶהָ)となっていて、「その一つの川」を意味しています。「その一つ」はグループの中でも特に際立たせるとき(包括的事柄)に使われます。黙示録22章でのその流れは「無代価で流れるいのちの川」を意味します。



## 5. 「全土を巡って流れている」①

### (1) 「～を巡って流れていた」

● 11節と13節の「全土を巡って流れていた」という表現と、14節の「～を流れていた」という二つの表現があります。ところが語彙は異なっています。「ハビラの全土を巡って流れていた」は、冠詞付きの分詞「ハツソーヴェーヴ」(חֲצוֹתָיִם) があるだけです(原文は「巡っている」)。第二の川である13節も同じく、原文では「クシュの全土を巡っている」となっています。「クシュ=エチオピア」(使徒8:26～39参照)

● 動詞「サーヴァヴ」(סָרַוּ)は、イエシュアがガリラヤの全域を「巡って」に使われています。イエシュアがガリラヤ全土をくまなく巡って御国の福音を宣べ伝えたのは、ピシヨン川が巡るハビラの地に良質の金や宝石(=「ベドラハ」「ショハム石」)があったように、その地の人々をそのような宝石に造り変えるためだったと言えます。ちなみに、ピシヨン(פִּישְׁוֹן)には「増え広がっていく」(פָּשַׁע)という意味があります。

## 5. 「全土を巡って流れている」②

### (2) 「～を流れていた」

●ところが14節の第三の川の「～を流れていた」には、冠詞付きの分詞「ハホーレーフ」(𐤇𐤏𐤅𐤃𐤃)が使われています。これは動詞「歩く」を意味する「ハーラフ」(𐤇𐤏𐤅)の分詞です。それはおもむくままに歩いて(=流れて)いるのではなく、神のご計画とみこころにそって「流れていること」を意味しています。イエシュアも御父のご計画とみこころに従って歩まれました。十字架の道さえもそうです。

●「ハーラフ」(𐤇𐤏𐤅)は、神の御前における人のすべての行為を統括する用語と言えます。イエシュアがその模範を示した「最後のアダム」です。第四の川には「流れていた」という語彙はなく、省略されています。そしてこの第四の川の流れから、イスラエルの父祖アブラハムが神に召し出されているのです。このように、「川」の流れにたとえて神のご計画が表されているのです。

## 5. 「全土を巡って流れている」③

- 「第一の川」は、神のご計画の主演となる神の民(=イスラエルと教会)に与えられる祝福の流れを表しています。その祝福の流れは、神性を象徴する「**金**」としてたとえられています。同時に、神の民イスラエルは「**宝石**」に、そしてエツクレーシア(教会)は「**真珠**」にたとえられています。12節では「ベドラハ」と訳されていますが、本体の「新しいエルサレム」においては「**真珠**」となっています(黙示録21:21)。
- 民数記11章7節にマナのこと書かれています。その色は「ベドラハのようであった」とあります。出エジプト記16章31節には「それはコエンドロの種のように、白く、その味は蜜を入れた薄焼きパンのようであった」とあることから、マナは白い色だと分かります。
- 「ショハム石」(縞めのう)はあらゆる**宝石**を代表しています(黙示録21:19~20)。宝石にしても、真珠にしても、それらは聖霊によって「造り換え」られたものです。

## 6. 「畑に隠された宝」と「真珠」①

【新改訳2017】 マタイの福音書13章44～46節

44 天の御国は畑に隠された宝のようなものです。

その宝を見つけた人は、それをそのまま隠しておきます。

そして喜びのあまり、行って、持っている物すべてを売り払い、その畑を買います。

45 天の御国はまた、良い真珠を探している商人のようなものです。

46 高価な真珠を一つ見つけた商人は、行って、持っていた物すべてを売り払い、それを買います。

● 「畑に隠された宝」と「高価な真珠」を見つけた人の行動について、共通する点が多いです。例えば「宝」も「真珠」も単数です。宝を見つけた「人」、および真珠を見つけた「商人」はキリストです。しかし異なる点があります。それは何でしょうか。

## 6. 「畑に隠された宝」と「真珠」②

答え . . . .

● 「宝」を見つけた人は、その宝を「そのまま隠しておく」という点です。これは何を意味しているのでしょうか。大祭司のエポデにある宝石はイスラエルを指しています。ですから、ここでの「畑に隠された宝」もイスラエルを指しています。そのイスラエルは神に選ばれ、見出されましたが、その人のもの(所有)になる前に、もう一度畑の中に「隠しておかれる」のです。それは彼らの心が頑なになることで、盲目とされることを意味しています。しかしそこには神の深いみこころがあります。そのみこころとは、福音が「異邦人にも及ぶ」ためです。しかし、神にとってイスラエルは決して揺らぐことのない「**宝の民**」なのです。

## 6. 「畑に隠された宝」と「真珠」 ③

### ① 出エジプト記19章5節

今、もしあなたがたが確かにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはあらゆる民族の中であって、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。

### ② 申命記14章2節

あなたは、あなたの神、主の聖なる民だからである。

主は地の面のあらゆる民の中からあなたを選んで、ご自分の宝の民とされた。

### ③ 申命記26章18節

・主は、あなたに約束したとおり、あなたが主のすべての命令を守り主の宝の民となること、

### ④ 詩篇135篇4節

主は ヤコブをご自分のために選び イスラエルを ご自分の宝として選ばれた。

### ⑤ マラキ3章17節

「彼らは、わたしのものとなる。——万軍の主は言われる——わたしが事を行う日に、わたしの宝となる。人が自分に仕える子をあわれむように、わたしは彼らをあわれむ。

## 6. 「畑に隠された宝」と「真珠」④

### 【大祭司のエポデ】

【新改訳2017】出エジプト記39章10～14節

10 その中に四列の宝石をはめ込んだ。

第一列は赤めのう、トパーズ、エメラルド。

11 第二列はトルコ石、サファイア、ダイヤモンド。

12 第三列はヒヤシンス石、めのう、紫水晶。

13 第四列は緑柱石、縞めのう、碧玉。

これらが金縁の細工の中にはめ込まれた。

14 これらの宝石はイスラエルの息子たちの名にちなむもので、彼らの名にしたがい十二個であった。

それらは印章のように、それぞれに名が彫られ、十二部族を表した。



## 6. 「畑に隠された宝」と「真珠」⑤

● 「**宝**」は隠されたのに対し、「**真珠**」は隠されることがありません。この高価な真珠は、ユダヤ人と異邦人からなる「エックレーシア」を指しています。イエシュアはこれらを得るために、すべての物(=いのちであるご自身の血)を売り払って、貧しくなられました。これは十字架で流された血潮をもって、エックレーシアという真珠を買い取ったことを意味しています。真珠は「キリストの花嫁」なのです。

【新改訳2017】Ⅱコリント人への手紙 8章9節

あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。

すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。

それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです。



## 6. 「畑に隠された宝」と「真珠」⑥

● 神の都「新しいエルサレム」にある門は「真珠」、都の大通りは「純金」、城壁の土台は「宝石」でできています。それらはセットで存在しています。

【新改訳2017】黙示録21章18～21節

18 都の城壁は碧玉で造られ、都は透き通ったガラスに似た純金でできていた。

19 都の城壁の土台石はあらゆる宝石で飾られていた。第一の土台石は碧玉、第二はサファイア、第三はめのう、第四はエメラルド、

20 第五は赤縞めのう、第六は赤めのう、第七は貴かんらん石、第八は緑柱石、第九はトパーズ、第十はひすい、第十一は青玉、第十二は紫水晶であった。

21 十二の門は十二の真珠であり、どの門もそれぞれ一つの真珠からできていた。  
都の大通りは純金で、透明なガラスのようであった。

## 今回のまとめ

●神と人とがともに住む「**新しいエルサレム**」は、歴史の中で展開する (1)「エデンの園」(2)「幕屋」(3)「神殿」(4)「イエシュア」(5)「教会」(6)「メシア王国」の最終的な姿ではなく、元からある**本体**そのものです。それは初めから神にあって完成されているのです。

【新改訳2017】イザヤ書 46章10節  
わたしは後のことを初めから告げ、  
まだなされていないことを昔から告げ、  
『わたしの計画は成就し、  
わたしの望むことをすべて成し遂げる』と言う。